

(11) 伝達力では漢字が最高

音声よりも十倍速い

耳で聞く“言葉”は、いくつもの音声の時間的な配列で成り立っていますから、一定の間を置いて次々に発声される音声を待って受け取らなければならないので、どうしてもかなりの時間を必要とします。

ところが、目で見える言葉である“文字”は、いくつものものを同時にまとめて読み取ることが出来ますから、耳で聞く場合には数秒間かかる言葉でも、文字だと一秒すらもかからないで読み取ることが出来ます。

だから、ラジオで耳から聞く場合には十分間もかかるようなニュースが新聞により目で読む場合には、一分間とかからないで読み取ることが出来るわけです。つまり、文字を使えば言葉に比べて、比較にならぬほどわずかな時間で、多くの情報を受け取ることが出来るのです。

その上、前項に述べましたように、内容を正しく受け取ることの確実性という点でも、文字は言葉よりずっと優れているのですから、文字時代になってからの人類の発展が著しいことも、また文字を理解する国民の多い国ほど文化が高いということも当然のことだにご理解いただけたと思います。

さて、その“文字”にも、世界にはいろいろな種類があります。わが国で使われているものだけでも、漢字、ひらがな、カタカナ、ローマ字

と、四種類の文字があります。これらの文字は、それぞれの効用の上でどのような特徴を持っていて、日本語を書き表わす文字として、この中のどれが最も優れているのでしょうか。

実はわが国で初めて高速道路が作られた時、道路標示に用いる文字としてどの文字を使うかということで実験を行なったことがあったのです。その実験によりますと、ローマ字で書かれたものは読み取るのに1.5秒かかりますが、かなだとその半分の0.7秒で読み取れ、漢字だとさらにその十分の一以下の0.06秒で読み取れる、ということがわかりました。それで高速道路には漢字が使われることに決まったのです。

同じ文字でもその種類によってこんなにも違いがあるのです。これからの生活はいよいよ多くの情報を必要とし、短時間に多くの文書を読むことが最も重要な仕事になるでしょう。その時、最も偉力を発揮する文字は漢字です。

その漢字を最も良く身につけている日本人が、現在の国際競争で最も優れた実績を挙げているのは、当然のことといえましょう。漢字を発明したのは中国人ですが、その漢字を最も良く、最も多く活用しているのは日本人です。とはいえ、決して満足すべき状態にあるとはいえません。

幸い、わが国の学校教育は、世界でも最も普及しており、しかも進んでいます。漢字の重要性を認識し、その教育法を改善すれば、国民のだれもが高い漢字力を身につけることが出来るはずです。